劇団nonoは、現在も劇団員募集中です！
俳優だけでなく、舞台スタッフ・制作企画も募集しています。

＜劇団ｎｏｎｏ事務局＞
（財）野々市町情報文化振興財団　情報交流館内
電話　076-227-6200　FAX　076-227-6205
e-mail　engeki@e-camellia.jp

主催　：（財）野々市町情報文化振興財団
助成　：（財）地域創造

劇団nono

第1回　小発表会

黄色のトマト

作　：　宮沢 賢治

平成２２年１月１１日（月）　開演 14 時
野々市町情報交流館カメリア　ホール椿

演　出　：　岡井 直道
演技指導・音響・照明　：　劇団アンゲルス

● 出　演 ●

私（キュステ）	吉村　菜花（なのか）
蜂雀（はちすずめ）	瀧澤　美喜
ペムペル（兄）	西村　優太朗
ネリ（妹）	吉村　楓（かえで）
語り	石澤　幸子
（50音順）	坂本　善昭
	中島　加津子
	中島　拓海
	庭田　陽介
	布村　万里子
	乗（のり）　雪子
	松橋　正子
	吉村　葵
	吉村　恵子
サポートメンバー	川本　千春（劇団アンゲルス）

剥製（はくせい）の蜂雀（はちすずめ）が私（キュステ）に、とても可哀相（かわいそう）なお話だとペムペルとネリ兄妹のことを語って聞かせるのですが、蜂雀は「かわいそうなことをした」と何度も繰り返すばかりで、何がどうしたのかなかなか話が進みません。

外の世界と関係せずに、二人だけで楽しく暮らしていたペムペルとネリの兄妹の好奇心から起きた悲劇、そして物語を彩る音や色彩を感じてください。

＜作者と作品について＞

宮沢賢治は、明治29年（1896年）に、岩手県花巻で生まれ、花巻農学校の教諭をしながら、詩や童話の創作をしました。昭和8年（1933年）、37歳の若さで亡くなりましたが、死後に作家として脚光をあびた。

この『黄色のトマト』は、作品としては未完成のため、内容に不整合が残っている。しかし、非日常的なこの童話は宮沢賢治の作品中で、魅力あふれる作品の一つといわれている。

＜劇団ｎｏｎｏについて＞

舞台芸術の創造活動を通じて、地域の文化芸術の活性化と人材の育成を目的とした、幅広い年代の住民が参加する野々市の劇団である。
平成23年度の市制記念イベント開催（予定）に向けて、途中数回の成果発表会を開催する予定。

主　　宰：竺覚暁（ちくかくぎょう）（野々市町情報交流館館長、金沢工業大学建築学科教授）
主宰補佐：多田富喜男（（財）野々市町情報文化振興財団事務局長）
顧　　問：岡井　直道（「劇団アンゲルス」代表）

平成21年8月より「ののいち演劇サークル」として月3日・2時間ずつの活動を行い、現在8歳～80歳代まで14名が所属。
小発表会を機に活動名を「劇団nono（のの）」とする。「野々市」という意味と無限の可能性を表す「ノン、ゼロ」、ゼロではないという思いが込められている。

＜指　導　者　について＞

指導は「劇団アンゲルス」の方々。
代表の岡井直道と澤田春菜、本庄亮の3名が演技指導にあたっている。

「劇団アンゲルス」は金沢の地で地域在住型の劇団として創造活動を続け、同時に世界の”地域”で活動する演劇人たちと連携し、演劇を通じた交流を行なっている。
野々市町での活動は、2008年8月に文化会館大ホールで「第60回高校演劇合同時発表会記念公演」、9月の「いしかわ国際交流フェスティバルin野々市」では屋外ステージで、また、2009年11月には館野小学校でも「道化師たち（ミヒャエル・エンデ作）」を上演している。